

国内外の企業・組織が熱い視線を注ぐ サステナビリティ人材を育てる学び

千葉商科大学

Chiba University of Commerce

時代や社会の変化に合わせて、進化し続けてきた千葉商科大学。予測困難な社会を生き抜く“サステナビリティ人材”の育成のために、2025年4月に新しい教育体制をスタート。伝統の実学教育と新しい学びの体制に迫る。

取材・文／今野雅晴

国内外で求められている 「サステナビリティ人材」

異常気象、地球温暖化、環境破壊など、報道される見出しを追いかけ、いくだけでも、サステナブル（持続可能）社会を実現することは、もはや「刻の猶予もない状況だと実感できる」。SDGsで示された17の目標は、私たちの意識を変え、企業もその取り組みを本格化させた。最近では、大手アパレルメーカーが、衣料サプライチェーン上の二酸化炭素排出量を削減し、2030年までに100%再生可能エネルギーへ移行することを宣言した。スイスの大手食品メーカーは、カカオ農家の「収入向上プログラム」に参加した農家が栽培したカカオ豆を使用したチョコレート菓子を発売した。

「サステナブル社会の実現を目指して企業の活動が活発化する中で、その推進を担うサステナビリティ人材を求める声は今後より大きくなっていくでしょう」。そう語るのは、千葉商科大学の手嶋進准教授だ。

「ダボス会議で知られる世界経済フォーラム（WEF）は、『グローバルリポート2023年版』の中で、今後10年間で予想される最も深刻なリスクトップ10を発表し、気候変動や環境破壊に関連する項目を6つ、それに伴う社会の混乱に関連する項目を2つあげています。また、同じWEFが2年ごとに発行しているFuture of Jobs Report 2023（仕事の未来レポート）では、LinkedInによる調査結果を示して、2018年から2023年の間で増えた仕事（役割）をまとめていますが、そのト

ップ10のうち、3つがサステナビリティ・環境関連の仕事でした。さらに、今後新たに創出されることが考えられる仕事として、サステナビリティの専門家も2位にあげています。迫る世界のリスクを回避し、私たちの未来のために貢献できるサステナビリティ人材は、これからの社会が最も必要としている人材のひとつです。

サステナビリティ人材の育成は、大企業でも優先順位を高く取り組まなければいけません」

千葉商科大学は2025年4月に新しい教育体制をスタートさせるが、その柱のひとつに「サステナビリティ人材の育成」を掲げている。全学部共通の必修科目群として共通教養科目が設置され、「倫理・SDGs」分野として、サステナビリティ人材を育成するための授業が数多く

置かれる。

「環境問題や社会課題の多くは、複雑な要素が絡み合い簡単には解決できません。その複雑さを理解し、多面的に考え、どうするべきかを意思決定できるサステナビリティ人材の能力は、企業活動や公共政策でも求められる力です。身につけた持続可能な社会を実現するための思考スキルと行動力は、どんな職業に就いても、生涯に渡って役立つ力になります」と手嶋進准教授は語る。

再エネ100%達成を支えた 学生の当事者意識と行動力

千葉商科大学は、サステナブル社会の実現に向けて、早くから行動してきた大学だ。手嶋進准教授がプロジェクトリーダーとなって推進してき



2025年4月
人間社会学部兼任予定
准教授
手嶋 進 氏



(左上)「自然エネルギー100%大学」の評価は海外でも注目されている。国内外の大学・企業からの視察オファーが絶えない。(右上)「CUC100ワイン・プロジェクト」では、ブドウ栽培と発電を両立させるソーラーシェアリングを導入。(左下)「学生団体SONE」は地元工務店と協力して教室の断熱化ワークショップを開催。学生が主体となって、省エネで快適な教室へと改修した。(右下)「ICT支援ボランティア」のように、自治体との連携も多い



た、大学が使うエネルギーを大学で創る「自然エネルギー100%大学」プロジェクトは、2019年に再エネ発電量と消費電力が同量となる「自然エネルギー100%（電力）」を達成した。その大きな力になったのが、同学が「ハートウエア」と呼ぶ、

学生たちの積極的な行動参加だ。「太陽光パネルの設置や照明のLED化、電気使用量と発電量の見える化といった『ハードウエア』と『ソフトウェア』の整備でも乗り越えられなかった壁をクリアできたのは、学生たちの参加意識と行動です」

プロジェクトに賛同したある学生グループは、学内の自動販売機の消費電力量削減を研究テーマにして、キャンペーンを1台ずつ調査。販売本数の少ないものや、古くて消費電力が大きいものを特定し、大学側へは撤去を提言し、自動販売機ベンダー各社には調査報告をプレゼンして省エネ型のものを導入することに成功。年間1万5000kWh(推計)の消費電力を削減した。また、「学生団体SONE」は、学内にさまざまな形で省エネを呼び掛ける一方で、地元工務店と協力して断熱ワークショップを開催し、学生たちがDIYで教室に断熱材や二重窓を設置するなどの活動を続けている。

「本学には、学生がさまざまな活動に積極的に参加し、学内・学外を問わず周りの人々と協力してプロジェクトを推進していくという校風があります。こうしたプロジェクト活動は、一つひとつが学びです。さまざまな組織との交渉などもあり、必ずしも学生たちの思惑通りには進み

ません。壁にぶつかるたびに、自分たちに足りない知識やスキルに気づき、それが新たな学びや行動へとつながっていくのです」

新しい教育体制のもとで、プロジェクト活動は全学部横断の希望者エントリ型「全学共通プログラム」として強化される。先に述べた「学生団体SONE」のほか、ソーラーシェアリングを導入したブドウ園で大学オリジナルワインの製造をめざす「CUC100ワイン・プロジェクト」、市川市と提携して子どもたちにパソコン操作を教える「ICT支援ボランティア」などユニークなものも多く、こうしたプロジェクトに、より多くの学生が参加しやすくなる。

「大学は未知のことにチャレンジする場所です。経験は必ず自分の糧になります。サステナビリティ人材として能力を発揮するには、当事者意識を持って自ら動ける行動力も併せ持たなければいけません。本学では、プロジェクト活動を通してこの両方を身につけることができます。私たちはこれからも、学生が大いに挑戦できる場や機会を数多く提供し、行動力を持ったサステナビリティ人材を育てていきたいと思えます」と手嶋准教授。千葉商科大学は、持続可能な社会を担うために必要な能力を身につけ、その実現のために高いモチベーションで行動できる人材をこれからも輩出していく。

Information

千葉商科大学



1928年設立の巣鴨高等商業学校を前身とし、1950年に千葉商科大学として、商学部商学科を開設。2025年4月からは商経学部、総合政策学部(設置構想中)、サービス創造学部、人間社会学部の4学部体制へ。独自の実学教育は内外から高い評価を受けている。同大学の学生を積極的に採用する「CUCアライアンス企業」約1020社(2024年1月現在)との提携や資格取得サポート等、キャリアサポートにおいても高い実績を誇る。

●DATA

千葉県市川市国府台1-3-1
TEL 047-373-9701 (入学センター)
URL <https://www.cuc.ac.jp/>